

## 京都市文化財ブックス第28集 『平安京』刊行によせて

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



### 京都市文化財ブックス第28集『平安京』

はじめに 京都市文化財保護課では、毎年、京都市文化財ブックスを刊行しています。2013年度は第28集として『平安京』を刊行しました。

平安京跡は京都市街地の中心部に20km<sup>2</sup>を超える広大な規模を有する、京都を代表する遺跡の1つです。

今回の『平安京』では考古学的な知見から平安京の実態についてとりあげました。これまでの継続的な発掘調査の成果や、それをもとにした研究成果をまとめ、平安京について詳しく紹介しています。

**平安京** 平安京は、桓武天皇の治世である延暦<sup>えんりやく</sup>13年(794)に長

岡京から遷都した都城です。その規模は東西1,508丈(約4,476m)、南北1,753丈(約5,225m)であり、現在の京都市内にあてはめると、おおよそ北は一条通、南は九条通、東は寺町通、西は天神川通の東となります。

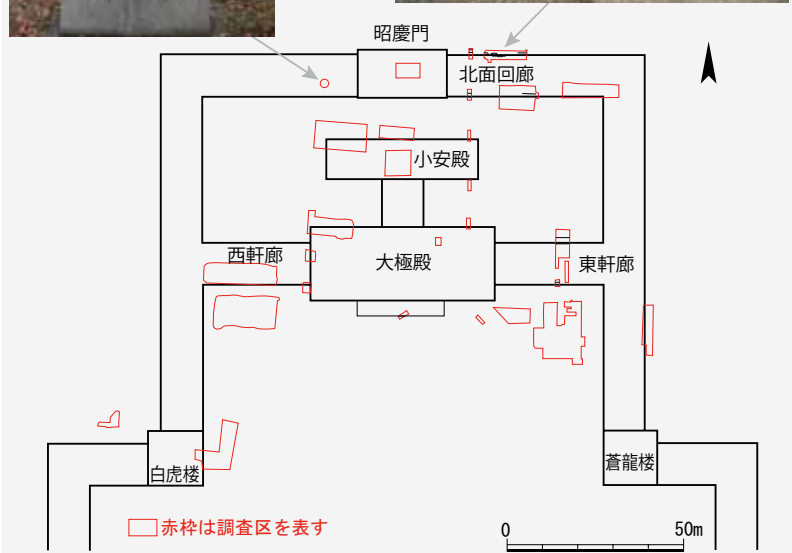
平安京の南辺中央には羅城門があり、そこから北へ幅28丈(約83m)の朱雀大路が平安宮へ伸びています。京域は南北・東西の条坊道路によって区画された40丈(約120m)四方を一町として街区を構成しています。

この街区には官寺である東寺・西寺、官市である東市・西市、外交施設である東・西鴻臚館といっ

た公的施設を左右対称に配置しました。また、街区は官人や京戸らの住民を集住させる役割もあったため、大規模な貴族邸宅や小規模な宅地が多数配置され、約10万人々が居住していたと考えられています。

平安京跡では、年間10件以上の発掘調査、30件以上の試掘調査、150件以上の詳細分布調査を行ない、多くの調査成果があがっています。その結果、平安京の様相や中世京都へ至る過程などが明らかになりつつあります。

**平安宮** 平安京の北端中央には天皇が居住し、政治を行なう平安宮が造営されました。規模は東西



大極殿院の復原

384丈(約1,174m)、南北460丈(約1,393m)です。現在の京都市内にあてはめると、おおよそ北は一条通、南は二条通、東は大宮通、西は御前通となります。

平安宮は豊臣秀吉が天正15年(1587)に築いた聚楽第や、徳川家康が慶長8年(1603)に築いた二条城、江戸時代の京都所司代とも重複しており、遺跡の残りは他の都城に比べてよくありません。

**平安京における調査と研究** 平安京にかかわる発掘調査は、昭和2年(1927)に淳和院で行なわれたのが最初です。その後、昭和3年(1928)に平安宮の豊楽院での発掘調査で基壇が検出され、平安時代の遺構が都市部である京都の市街地でも確認できることがわかりました。

平安京の研究は、文献史料と継

続的な発掘調査を含めた総合的な研究が進められています。1994年にはこのような研究成果をまとめた『平安京提要』が財団法人古代学協会から、翌年には『平安宮Ⅰ』が財団法人京都市埋蔵文化財研究所から刊行されました。両書の刊行から20年が経ちました。この間に多くの発掘調査や試掘・立会調査で成果があり、今回の文化財ブックス『平安京』では、その成果を盛り込んだ内容となっています。

たとえば平安宮では、大極殿の掘込地業を検出し、その位置を推定する重要な成果がありました。また、豊楽院の清暑堂、朝堂院東第1堂の昌福堂なども基壇の痕跡を発掘調査で検出したことにより、平安宮を復元する重要な調査成果となりました。

一方、豊楽院の南門である、豊

- 目次 -	
第I章 都城平安京	(1) 神泉苑
第1節 平安宮・京の概要	(2) 右京職
第2節 平安京以前の都城	(3) 鴻臚館
第3節 平安京研究の現状	(4) 堀川・西堀川
第4節 平安京の立地	(5) 東西市
第II章 平安宮	(6) 東寺
第1節 平安宮の構造	(7) 西寺
第2節 大極殿院	(8) 羅城門
第3節 朝堂院	(9) 貴族邸宅
第4節 豊楽院	(1) 宇多院
第5節 内裏	(2) 高陽院
第6節 曹司	(3) 冷泉院
(1) 中和院	(4) 堀河院
(2) 中務省	(5) 朱雀院
(3) 太政官	(6) 淳和院
(4) 民部省	(7) 齋宮邸
(5) その他の曹司	(8) 西三条第
第7節 朱雀門	(9) 右京一条三坊九町
第8節 大垣	(10) 右京六条一坊五町
第III章 平安京	(11) その他貴族邸宅
第1節 平安京の構造	第4節 庶民の宅地
第2節 公的施設	(1) 中・小規模宅地
	(2) 町家

本書の目次一覧

楽門推定地の北東部で行なった試掘調査では、豊楽門の痕跡はなく、推定地よりも南に比定することになりました。

平安京では、齋宮邸(右京三条二坊十六町)や西三条第(右京三条一坊六町)など、発掘調査により出土した文字資料から邸宅の性格がわかる成果がありました。これは、継続的な発掘調査の賜物です。また、貴族邸宅だけではなく、庶民の宅地についても明らかになってきています。庶民は小規模な敷地内に2・3棟の建物を建てて生活をしていました。平安時代の中期以降には、道路に面した町家が成立してきます。貴族邸宅と庶民の宅地では大きな違いがあったようです。

発掘調査で見つかった多くの遺構や遺物は、平安時代の人々が実際に生活をしてきた痕跡です。現在の京都の原点である平安京がどのような都であったのか、想いを馳せていただければと思います。

(京都市文化財保護課 家原圭太)